



記入日 2017年 1月 13日

1. 概要

実践団体名	兵庫県立東播工業高等学校		
連絡先	079-432-6861		
プランタイトル	東播工-災害時支援プロジェクト T-DAP 2016		
プランの対象者※1	高校生・地域住民 防災関係者	対象とする 災害種別※2	地震

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

本校生は、卒業後、その大半が地元就職し、地域社会の担い手として活躍している。在学中から本プロジェクトを通して、近年増加する自然災害時に備え、自ら行動に移すことができる「地域の防災リーダー」の育成を目指す。

【プランの概要】

- (1) 地域連携型組織的防災活動
地域と連携した「地域合同防災避難訓練」を実施し、災害時に組織的な対応ができるよう取り組む。
- (2) 『災害時支援チーム』(T-DAT) の派遣
チームを結成し、研修や訓練に参加して防災の知識と技術の向上を図る。啓発活動等に取り組む。
- (3) 工業高校の特色を生かした「ものづくり防災活動」
救助グッズのアイデアを募り、災害時の使用場面や要求性能を考えながらグッズの製作を行う。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

- ・各種訓練による防災時の即時行動および将来の地域リーダーとしての言動
- ・近隣での災害時における支援(人材派遣・募金活動による支援)
- ・災害時対応グッズ
- ・柔軟な発想による災害時への備え



2. プランの年間活動記録 (2016 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	年間計画の調整 ・校内担当者との打合せ ・協力団体への依頼 他	新メンバー募集の呼掛け 協力団体との事前打合せ 資材の準備	防災教育推進委員会打合せ① 「災害時支援チーム」(T-DAT) メン バー結成 グッズアイデアの選定②
5 月	グッズの設計	加古川市社会福祉協議会に 登録(更新)※災害時には 社協からの要請を受け T-DAT 派遣 「防災教育推進校」申請	「災害時支援チーム」(T-DAT) を加 古川市社会福祉協議会に登録(更 新)③ 4 校合同熊本募金活動④
6 月	グッズの試作	資材の購入	
7 月	グッズの試作	協力団体との事前打合せ	高校生防災 Jr リーダー研修合宿 参加⑤
8 月	グッズの製作	高校生防災 Jr リーダー研修 合宿報告書の作成・指導	東日本大震災被災地支援 参加⑥ 熊本地震復興支援ボランティア参 加⑦
9 月	グッズの製作	資材の購入 協力団体との事前打合せ	
10 月	グッズの完成	資材の購入 事後アンケートの実施	地域合同防災避難訓練 実施⑧ 防災教育チャレンジプラン中間成 果の発表
11 月	グッズの活用 ・改良点の検討	報告書の作成	炊出し訓練 実施 ⑨ 防災教育推進校実践報告会 発表⑩
12 月	グッズの改良		4 校合同熊本地震復興支援共同募 金⑪
1 月		資料作成	
2 月			「高等学校魅力・特色づくり活動 発表会」発表 校内「高校生ふるさと貢献活動事 業」報告会 防災教育チャレンジプラン最終成 果の発表
3 月			



3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： ① 】※3

タイトル	「防災教育推進委員会」設置
実施月日（曜日）	平成28年4月1日（金）
実施場所	校内
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：防災教育推進委員会メンバー 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	放課後 1.5 時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	講習会・学習会・ワークショップ°
活動目的※5	その他 （ 年間計画 ）
達成目標	各種活動の実施
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	会議室において 委員長より年間計画の発表 担当者等の決定
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	レジュメ・筆記具
参加人数	推進委員
経費の総額・内訳概要	コピー代（紙・インク）
成果と課題	【成果】 役割の分担 【課題】 全教職員・全校生徒への周知徹底・広報
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： ② 】※3

タイトル	防災グッズ案の選定
実施月日（曜日）	平成28年4月7日（木）
実施場所	各科職員室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 各科教員 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	随時
プログラムの カテゴリ、形式※4	研究、その他学校内での時間
活動目的※5	その他（前年度に募集した防災グッズのアイデアより作成可能なものを選定）
達成目標	グッズの選定
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	各科課題研究等での作成
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	例： 課題研究班 廃棄車椅子・ノーパンクタイヤ・木材・くぎ・ねじ・溶接道具一式 ドライバー等の工具
参加人数	50名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 教室等のドアも通過できる小回りの利いたリヤカーの完成 【課題】 小型のため、物資輸送に限界がある。バランス等も考えて、輸送容量の拡大を思案中。
成果物	小回りの利いたリヤカー

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： ③ 】 ※3

タイトル	東播工-災害時支援チーム 登録
実施月日（曜日）	平成28年 4月～5月
実施場所	本校
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 防災教育推進委員 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	その他（ 加古川市社会福祉協議会 ）
活動目的※5	災害対応能力の育成、その他 今年度、主として防災活動に取り組む生徒を募る。 加古川市社会福祉協議会にボランティア登録し、「T-DAT」として災害時に円滑に動ける体制を整備する。
達成目標	メンバーの登録
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	4月中旬 新入生オリエンテーションにてT-DATの取組みを紹介。 5月中旬 T-DATの生徒を募集（保護者の同意書）。 5月下旬 加古川市社会福祉協議会に登録する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	取組み紹介 パワーポイント T-DAT 募集 募集用紙 社協登録 所定の用紙
参加人数	1年生 240名 , 募集対象：全校生（約680名）
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 東播工-災害時支援チームの結成 【課題】 今後の呼びかけおよび参加の仕方 他
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： ④ 】 ※3

タイトル	4校合同熊本地震募金活動
実施月日（曜日）	平成28年5月9日（月）
実施場所	JR加古川駅前
担当者または講師	担当者・講師等の区分：生徒会担当教職員 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間程度
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事、その他（募金活動）
活動目的※5	防災意識を高める、その他（被災地支援の大切さを知る）
達成目標	市内の高校と協力して支援を行う
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前調整 ・市内の高校への呼びかけ ・日程調整 ・募金活動場所の許可申請 ・新聞社への協力依頼 当日の行動 ・4校そろっての声掛け
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・本校生、加古川東校生 ・加古川南校生、県立農業校生 ・募金箱 ・ポスター
参加人数	上記4校 生徒70名
経費の総額・内訳概要	募金箱作成代
成果と課題	【成果】 単独の活動ではなく、市内の高校が協力して活動することができ、意識の共有ができた。 【課題】 呼びかけや日程調整
成果物	募金 約9万円



※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： ⑤】※3

タイトル	中学校・高校生防災ジュニアリーダー研修合宿（主催：兵庫県教委） 参加
実施月日（曜日）	平成28年7月21日（木）～23日（土）
実施場所	国立淡路青少年交流の家
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 各校教員 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	3日
プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事・講習会・学習会・ワークショップ（WS） 体験学習・避難・防災訓練
活動目的※5	防災に関する知識を深める・防災意識を高める・災害対応能力の育成
達成目標	参加者の防災に対する意識・知識・技術などの向上が見られた。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	7月21日（木） 12：00 受付 受付後部屋へ移動・体操服に更衣 13：00 開講式 13：30 講義1「中学生・高校生、災害と向き合う」 16：10 講義2「熊本地震報告①」 17：00 夕べのつどい 17：30 夕食・入浴 20：00 WS1「太陽炉をつくろう」 22：00 就寝 7月22日（金） 6：30 起床・寝具整理・洗面・朝のつどい 7：20 朝食・清掃 9：00 講義3「ボランティアについて考える」 10：40 講義4「阪神・淡路大震災を語り継ぐ」 12：15 昼食 13：20 発表「熊本地震報告②」 14：20 講義5、WS2「東日本訪問報告と支援について」 15：50 WS3「アクションプラン作成①」 17：00 夕べのつどい 18：00 夕食・入浴 20：00 WS4「アクションプラン作成②」 22：00 就寝 7月23日（土） 6：30 起床・寝具整理・洗面・朝のつどい 7：20 朝食・清掃 9：00 WS5「アクションプラン発表」 11：10 閉講式 11：40 昼食 12：30 更衣後玄関前に集合、バス出発 13：20 野島断層保存館 見学 解散（ルートごとに出発）



	 
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	アルミガス台シート、A3 の厚紙、30cm 定規、はさみ、糊、ダブルクリップ 3 個、しおり、弁当、水筒、タオル、洗面用品、筆記用具、講義用ノート、学校指定の体操服、就寝用ジャージ、Tシャツ、下着、健康保険証、常備薬、宿泊費、野島断層保存館入場料
参加人数	約 60 名
経費の総額・内訳概要	アルミガス台シート、A3 の厚紙、30cm 定規、はさみ、糊、ダブルクリップ他
成果と課題	【成果】 参加者の防災に対する意識が向上した。 多くの高校生と交流し意見交換ができた。 【課題】 環境が良いところではあるが、場所が少し遠い。
成果物	別紙：参加生徒の感想

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



◆感想文（合宿の感想や今後の取組について）

(2年 男子 T)

私は2泊3日のボランティア合宿で学んだ事は「伝える気持ち」と「伝わる気持ち」です。

「伝える気持ち」は、被災者の方々は思い出すのも辛い事を、他の人にこんな思いをさせないようにするために、震災について何が不安だったか、何が安心感を与えてくれたかを詳しく話してくださり、その強い気持ちを無駄にしないようにしっかりと受け取らなければいけないと思いました。そして東北の現状をしっかりと知り、まだまだ復興が出来ていないという事実を広めていかなければならないと感じました。

「伝わる気持ち」は、私たち若い世代が、しっかりと学び、語り継いでいかなければならない立場になっていきます。その中で、語り継ぐ相手により深く防災や減災について知ってもらうために、伝える側が伝わる気持ちを考えなくてはならないとも思いました。

この合宿で悩んだ事は、被災地で被災者の方から差し入れはもらってよいか、もらってはいけないということについてです。その答えはどちらも合っていてどちらでもないというものでした。このように難しい答えがある被災地で私は考え、つまずきそして、成長することができたと思っています。

私自身これから、次の世代に教えることが必要となっているので、たくさんの方々と繋がっていきたくて感じました。さらに、これからもボランティア活動に力を入れていきたくて思っています。

(2年 男子 M)

私が防災ジュニアリーダー育成合宿に参加した理由は災害時に自分に何が出来るかを学ぶためです。

この3日間で学んだことは、初日の講義では、災害と向き合う大切さです。災害が起きた後は、心のケアが大切なこと、災害前には、防災教育の大切さの2つを学びました。

講義2の熊本地震では、実際に熊本に行かれた先生の話の話を聞きました。その話を聞いて私は、地震の被害の大きさと、地域が違うだけでの被害の大きさと、雰囲気の違いがあることを知りました。夜のWS(ワークショップ)①では、太陽炉を作りました。そして太陽炉で消毒することで命が助かることを学び、焼き芋とゆで卵ができることを知りました。講義3では、ボランティアの5つの要素とボランティアで必要は意識を学びました。講義4では、阪神・淡路大震災時の体験談を聞きました。WS③④⑤ではアクションプランを作り発表しました。その中で学校の特色を生かしたものが多く、参考になるものが多くありました。3日目に野島断層保存館に行き、そこで聞いた話は一言一言に想いが込もっていて忘れる事ができません。

私は今回の合宿に参加できてよかったと思います。それは、講師や他の学校の先生の話の話を聞き、多くのことを学ぶことができたからです。ありがとうございました。

(1年 男子 K)

今回の防災ジュニアリーダー育成合宿に行ってみて自分が思った事は、自分たちは今までのように守られる側ではなく、守る側になっているということです。地域でもし、災害などが起きた時、自分たちはまず自分の身を守り、それから人を助けられるということを経験した今回の育成合宿で学びました。

講義では、舞子高校の先生方を初めとするいろいろな先生方とお話をさせて頂きました。現在の熊本の状況や子供のケアの方法、実際に地震が起きた時にどうするかなど、具体的にとても分かり易く教えてもらいました。その中でも、最も自分がなるほどと納得できた話があります。それは、防災教育の基本です。防災教育の基本とは、文字通り防災をする上で最も根本的かつ重要なことです。もし災害が起きた時には、まず第一に自分の身を守り、自分が安全かどうか確認した上で初めて他人を救う事ができるというもので、とても理にかなっていると自分は思いました。今までの自分の考え方だと、災害が起きるとまず家族のもとへ行き、すぐに他の人も助けに行っただろうと思います。しかし今回の講義で教えてもらったように、家族と集まって、十分に自身の安全確認をする必要があるという事が理解できました。これからも防災の知識をもっと高めて、将来起こるであろう災害に備えていきたいです。

(1年 男子 O)

この3日間の合宿は僕にとってとても有意義な時間になりました。講義やワークショップでは、知っていてもありましたが、知らないこともたくさん知ることができました。講義ではボランティアをする際に必要となる知識、気配りや思いやり積極性が必要だということを経験しました。他にもいろいろなことを学びましたが、5つの要素が大事だということを知りました。自発性、無償性、継続性、社会性、創造性の5つです。特に継続性はこれまでであった災害のことを風化させないということがとても大事な事だと思っています。これから記憶から消えないように、僕達が語り継いでいきたいと思います。

ワークショップでは、他校の人との交流がありました。始めは不安しかなかったのですが、同じ班になった人とは少しの時間でとても仲良くなった感じがしました。他校の人と相談したことを前で発表するという事もできました。みんなそれぞれ全く違う意見を持っていましたが、共感できることも、学ぶこともありました。自分の意見を発表したのも良い経験になりました。アクションプランの作成も、どんな結果になるかわかりませんが、役に立つことができればいいと思います。

3日間という短い時間でしたが、とても濃い内容の合宿になり、良かったと思います。



【実践プログラム番号： ⑥】※3

タイトル	中学校・高校生防災ジュニアリーダー研修 ～東日本大震災被災地支援～合宿（主催：兵庫県教委）参加
実施月日（曜日）	平成28年8月2日(火)～4日(木)
実施場所	宮城県、東松島市、多賀城市
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	3日
プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事・講習会・学習会・ワークショップ・体験学習・避難・防災 訓練
活動目的※5	防災に関する知識を深める・防災意識を高める・災害対応能力の育成
達成目標	ジュニアリーダー育成合宿で学習したことを東日本大震災の被災地において実践し、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高めるとともに、防災とボランティアに関わるジュニアリーダーの育成をめざす。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	8月2日(火) 7:40 集合・点呼 出発式 8:00 出発・バス内研修 20:00 東松島市大曲仮設住宅 着 20:15 研修Ⅰ「震災を語り継ぐ」 東北大学特任教授 齋藤 幸男 様 22:00 就寝 8月3日(水) 6:30 起床(身支度・掃除) 7:00 朝食 8:50 研修Ⅱ「あおい地区視察」 東松島市大曲地区仮設住宅自治会長 小野 竹一 様 10:50 研修Ⅲ「大川小学校等視察」 小さな命の意味を考える会代表 佐藤 敏郎 様 11:50 昼食 (宮城県石巻市小船越二子北下 1-1) 13:30 研修Ⅳ「宮城県多賀城高等学校での交流」 16:50 研修Ⅴ「大曲地区仮設住宅での交流」 20:00 入浴 22:00 就寝 8月4日(木) 6:00 起床(身支度・掃除) 6:30 朝食 7:30 朝食(サービスエリア)・バス内研修 18:30 JR 神戸駅北側 湊川神社前 到着・解散



準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	
参加人数	75名
経費の総額・内訳概要	各自負担
成果と課題	【成果】 復興まだ半ばであることや笑顔の奥にある心の傷等を直接肌で感じることが出来た。 【課題】 伝えることの大切さ、続けることの大切さ
成果物	子供たちの笑顔 参加生徒の感想

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

◆感想文（合宿の感想や今後の取組について）

(2年 男子 T)

私が参加し感じたことは、無力感と不安感でした。東北被災地で自分は何ができたろうか、これから自分に何ができるのだろうかと思ったからです。

私は東北被災支援合宿のバス内研修で自己紹介の時に「被災された方々の話をしっかり聞き、それをしっかりと他の人に伝えていきたい。」と言いました。しかし、東北に行き被災5年後の大川小学校を見ると、とても胸が苦しくなりました。それと同時に、この現実を家族や友達に伝えられるのだろうかと不安になりました。そんな中、1日目の東松島市大曲仮設住宅での話していただいたことを思い出しました。それは、「きみたちにこの東北で持って帰ってほしいものは勇氣と希望それだけです。」という言葉でした。私は自分にできることが何かを考えました。出てきた答えは、やはり他の人に伝えることと、今回の東北合宿で訪れた東松島市大曲仮設住宅の方々や大川小学校での佐藤さんの話、そして多賀城高校の皆さんのことをわすれないことでした。今回の合宿では何もできませんでしたが、次に行くとき何ができるかと考えられるような合宿でした。ですので、機会を頂けるのであれば来年もまた参加させていただきたいと思います。

この合宿に参加し感じたことは無力感と不安感でしたが、持ち帰ったモノは勇氣と希望、そして、繋がることの大切さでした。とても良い経験になりました。

(2年 男子 M)

多くの方々の話を聞いた中で、私が大切だと感じたことは「人との繋がり」と「前向きな心」です。「人との繋がり」は、小野さんとあおい地区を見学しているときに、“暮らしやすい”をテーマに街が作られていることを知った時に感じました。利用者と季節に合わせた四つの公園など、仮設住宅にいた人たちとの繋がりを話していただき、そう感じました。

「前向きな心」では、斎藤先生の話に出てきた、生徒が作った斎藤先生のモザイクアートです。モザイクアートに使われている写真の中には、親を亡くしている人もいましたが、どの写真も笑顔の写真でした。このほかにも、被災した後でも楽しそうにダンスを踊る姿などの映像をみて、前向きな心が大切だと思いました。

この2泊3日を通して、見て・聞いて・感じたことは忘れられず、特に大川小学校で聞いた佐藤さんの話と風景を忘れることはないと思います。私は次に大きな災害が起きたときは大川小学校の悲劇を繰り返さないようにしたいと思いました。自分の無力さを感じた2泊3日になりましたが、次に行くボランティアでは、自分が無力でないと感じれるものにしたいと思いました。



【実践プログラム番号： ⑦ 】※3

タイトル	高校生による平成28年熊本地震被災地支援活動 (4校合同：県立三木東高等学校・県立三木高等学校 県立東播工業高等学校・県立龍野北高等学校)
実施月日(曜日)	平成28年8月23日(火)～26(金)
実施場所	熊本県上益城郡益城町、阿蘇郡西原村、熊本市
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	4日
プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事・体験学習・その他(支援活動)
活動目的※5	防災に関する知識を深める、技術を身につける、
達成目標	(1) 現地へ赴き、復興支援活動を行う。 (2) 支援活動を通じて、人を助けること、協力すること、人 と人との絆を大切にする気持ちの大切さを学ぶ。 (3) ボランティア活動での体験を今後の防災教育やボラン ティア活動に活かす。
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	8月23日(火) 7:30 県立三木東高等学校出発 8:00 県立三木高等学校出発 8:30 県立東播工業高等学校出発 9:00 県立龍野北高等学校出発 10:00 岡山県道口サービスエリアで合流 17:00 宿舎到着(福岡県天理教鎮西大教会) 夕食・入浴・ミーティング 22:00 就寝 8月24日(水)(熊本県益城町にて活動) 5:00 起床 6:30 出発 9:30 作業開始 15:00 作業終了 17:00 宿舎到着 夕食・入浴 ・ミーティング 22:00 就寝



平成28年8月23日～26日
熊本地震被災地復興支援活動
～被災地小学生との交流～



	8 月 25 日 (木) (熊本県西原村にて活動) 5 : 00 起床 6 : 30 出発 9 : 30 作業開始 13 : 00 熊本県立東稜高等学校高校との交流 17 : 00 宿舎到着 夕食・入浴・ミーティング 22 : 00 就寝 8 月 26 日 (金) 6 : 00 起床 8 : 00 宿舎出発 15 : 30 県立龍野北高等学校到着 16 : 30 県立東播工業高等学校到着 17 : 00 県立三木高等学校到着 17 : 30 県立三木東高等学校到着
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	軍手、ビニール袋、救急箱、スコップ、ケース、バケツ、他
参加人数	4 校合同(そのうち本校参加者 15 名) 県立三木東高等学校・県立三木高等学校 県立東播工業高等学校・県立龍野北高等学校
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・復興まだ半ばであること ・兵庫県内の高校 4 校で協力して支援・交流ができた。 ・4 校の絆ができた。 ・子供たちの笑顔に触れることが出来た。 【課題】 ・4 校の打ち合わせ
成果物	別紙：しおり

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



◆しおり

熊本地震復興支援 ボランティア

於 熊本県熊本市、益城町、西原村



活動のしおり

平成28年8月23日(火)～8月26日(金)

兵庫県立_____高等学校

_____年 _____組 _____番 氏名_____



1 目的

- (1) 現地へ赴き、復興支援活動を行う。
- (2) 支援活動を通じて、人を助けること、協力すること、人と人との絆を大切にする気持ちの大切さを学ぶ。
- (3) ボランティア活動での体験を今後の防災教育やボランティア活動に活かす。

2 実施日

平成28年8月23日(火)～8月26日(金) 3泊4日

3 活動先

熊本県上益城郡益城町、熊本県阿蘇郡西原村、熊本県熊本市

4 作業内容

- ①被災地域でのがれき処理補助ボランティア
- ②被災地域での農業ボランティア
- ③高等学校間交流

5 日程概要

8月23日(火) 7:30 県立三木東高等学校出発 8:00 県立三木高等学校出発
8:30 県立東播工業高等学校出発 9:00 県立龍野北高等学校出発
17:00 宿舎到着

8月24日(水) 6:30 出発 9:30 作業開始 15:00 作業終了 17:00 宿舎到着

8月25日(木) 6:30 出発 9:30 作業開始 13:00 熊本県立東稜高等学校高校との交流
17:00 宿舎到着

8月26日(金) 8:00 出発
15:30 県立龍野北高等学校到着 16:30 県立東播工業高等学校到着
17:00 県立三木高等学校到着 17:30 県立三木東高等学校到着

6 宿泊場所

天理教鎮西大教会 〒813-0023福岡県福岡市東区蒲田5-2-72
TEL 092-663-2000

7 参加者

生徒 県立三木高校 名、県立三木東高校 名
県立龍野北高校 名、県立東播工業高校 名

引率 団 長 県立三木高校校長
副 団 長 県立龍野北高校校長
県立東播工業高校校長
県立三木東高校校長

三木高校教員、龍野北高校教員、東播工業高校教員、三木東高校教員

8 ボランティア活動で注意すべき事柄 (兵庫県立舞子高等学校資料より)

(1) 心構え

- ① 災害支援が目的。まず、与えられた仕事を丁寧に、きちんとこなすこと。
- ② 被災地を見てみたいとか、何かをして満足したいという気持ちは心の中にしまっておくこと。

(2) 活動時の留意点

- ① 「ボランティアをしてあげている」ではなく、「ボランティアをさせてもらっている」という気持ちが必要だと言われる。難しいかもしれないが、この言葉はいつも噛み締めて欲しい。
- ② 絶えず周囲に気を配り、指示されるまで待つのではなく、自分から進んで仕事を探すなどの積極性が欲しい。
- ③ 活動時間は、ボランティアを受け入れている社会福祉協議会等が決めた時間を守る。原則的には、午前9時から10時に始まり、1時間の昼休みを挟んで、午後4時ごろ終了する。これは、現地の方々の生活時間を守るためである。外部から入るボランティアは3日から5日程度しか活動しないので、できるだけ長時間活動したいと考えがちだが、早朝、夕方以降の活動は、現地の方々の生活を乱すことになる。
- ④ 昼休みを十分に取り、途中の短時間の休息もとることで、オーバーワークを防ぐことが大切である。ボランティアが体調を崩すと、ボランティア仲間や現地の方々に迷惑をかけてしまうという最低の事態になる。それだけは避けなければならない。
- ⑤ 被災者の、問わず語りのお話には、耳を傾けてほしい。自分の被災体験を誰かに聞いてもらいたい、それを言う機会がなかった人も多い。きちんと聞いて、「お話をして下さってありがとうございます。」「そのお話を、帰ってみんなに伝えていきます。」といった言葉を返してほしい。
- ⑥ 被災地の方々からボランティア活動に対して、「ありがとう」の言葉をかけていただくことがある。きちんと返事を返して欲しい。
- ⑦ 時々、被災された方が、ボランティアにお茶を出してくださることもある。きもちよく頂いて、丁寧にお礼を述べる。ただし、高価なものが出されたときは、先生に相談すること。
- ⑧ ボランティアの何気ない言葉が被災者の気持ちを傷つけることがある。「泥のにおいがくさい」「ひどいな。これでは生きていないだろうな」「遺体がみつかったらどうしよう」などの言葉は、ボランティアが仲間内でつい言うてしまうことがあるようだが、被災者の気持ちを考えて行動して欲しい。
- ⑨ 写真撮影は、帰ってからの報告や発表用など、必要最小限に。できれば、「帰って報告にしたいので、撮影してもいいですか。」という断りは必要である。
- ⑩ 活動中に気になることがあれば、手帳にメモするとよい。その日のボランティア終了時に、ボランティアセンターに報告すると、翌日以降の活動に活かされていく。また、自分たちの反省会でも、気づいたことを報告することが必要である。ポケットサイズの手帳とボールペンをポケットに入れておくとうい。
- ⑪ 活動場所には、活動に必要な物品（水等の飲料・昼食・タオル等）と貴重品だけを持って行く。活動がしやすい（両手が使える）ように、荷物はひとまとめにする。リュックサックか

ウエストポーチ等が便利。

- ⑫被災地での活動は、危険がともなうことや重労働となる場合がある。自分自身で安全や健康を管理することが基本であることを理解しておくこと。体調が悪い人・体力に自信のない人は、事前に申し出ること。また、途中で気分が悪くなった人も、すぐに申し出ること。
- ⑬目的は被災地の支援であり、友達との親睦や夜中まで語り合うことではない。就寝時間を守るとともに、守っていない人には、きちんと注意できること。
- ⑭食事はきちんととること。しっかりと眠ること。体調管理の基本は、食事と睡眠である。
- ⑮すべてにおいて、時間を守ること。一人の遅れが、全体に迷惑をかける。
- ⑯被災地域では食品等が購入できる商店があるとの情報もあるが、基本的には被災地では購入できないものとする。
- ⑰携帯電話・スマートフォンについて
- ・原則として保護者との連絡、緊急連絡のみに使用する。ボランティア活動中はもとより休憩時間等においては使用しないこと。
 - ・ボランティア活動を記録するなどの場合、写真撮影に使用してもよい。ただし、許可が必要な場合もある。
 - ・撮影した写真や個人的な感想をSNSなどに投稿したりシェアしたりすることのないようにする。

9 持参するもの

(1) 学校で準備するもの

軍手、ビニール袋、救急箱、等

(2) 各自持参するもの

物 品	内 容	チェック欄
Tシャツ ジャージ	最低4日分 汗、泥で濡れる可能性あり。余分に持つ。 被災地なので、洗濯を前提とせず、持ち帰りを前提で枚数を考えておく。	
長ズボン	被災地なので、洗濯を前提とせず、持ち帰りを前提で枚数を考える。	
下着	最低4日分 汗、泥で濡れる可能性あり。余分に持つ。	
靴下	最低4日分、足まめ対策としても必要 汗、泥で濡れる可能性あり。余分に持つ。	
タオル等	数枚、多めに用意する。 汗をふき取る使い捨ての紙シートも重宝	
帽子	直射日光を遮るために必要	
軍手	余分に準備	
水筒	ペットボトル(500ml)を水筒として活用してもよい。	



物 品	内 容	チェック欄
ティッシュ	ポケットティッシュ、ウェットティッシュ、除菌ティッシュ	
体温計	毎朝、検温し記録する。	
雨具 カッパ・傘	小雨でも活動するため、安価で丈夫なものを用意する。	
補助食品	カロリーメイトやソイジョイ、ビスケットなどの高カロリー食品がよい。	
保険証	コピー	
常備薬等	目薬、うがい薬、乗り物酔い止め、カットバン等、自分の責任で持参	
メモ 筆記用具	小さいメモノートは何かと便利	
衛生用品	歯ブラシ、石けん、コンタクト用品、爪切り、生理用品	
リュックサ ック等	荷物は一つにまとめる。	
ゴミ袋 (学校でも準備)	自分が出したゴミはすべて持ち帰る。 汚れた衣服が入る程度のものも必要	
金銭	最小限の金額にする。 8/26(金)昼食分は必要	
昼食 (8/23(火)分)	捨てることのできる容器に入れる。 サービスエリアで昼食をとることも可	
その他 あるとよい もの	耳栓、エアークッション、冷えピタ、塩飴、アルコール除菌スプレー アイマスク、洗剤、虫除けスプレー、マスク等	

10 日程

活動日	時間	内 容	
第1日目 8/23 火		1号車	2号車
	7:15	三木東高校集合	7:15 東播工業高校集合
	7:30	三木東高校出発	7:30 東播工業高校出発
		↓	↓
	8:00	三木高校出発	9:00 龍野北高校出発
	10:00	岡山県道口サービスエリアで合流	
	17:00	宿舎到着(福岡県天理教鎮西大教会)	
		夕食・入浴・ミーティング	
	21:00	就寝	



第 2 日目 8/24 水	5:00	起床	
	5:30	朝食	
	6:30	宿舎出発	
		↓	
	8:30	熊本県ボランティアセンター 熊本県益城町にて活動	
	12:00	昼食(弁当)	
	13:00	活動開始	
		益城町立広安西小学校にて草取り、清掃、児童との交流等	
	15:00	現地出発	
		↓	
	17:00	宿舎到着	
		夕食・入浴・ミーティング	
	21:00	就寝	
第 3 日目 8/25 木	5:00	起床	
	5:30	朝食	
	6:30	宿舎出発	
		↓	
	8:30	熊本県ボランティアセンター 熊本県西原村にて活動	
	12:00	昼食(弁当)	
		↓	
	13:00	熊本県立東稜高校着	
		生徒間交流	
	15:00	現地出発	
		↓	
	17:00	宿舎到着	
		夕食・入浴・ミーティング	
	22:00	就寝	
第 4 日目 8/26 金	6:00	起床	
	7:00	朝食	
	8:00	宿舎出発	
		↓ サービスエリアで昼食(個人負担)	
	15:30	龍野北高校到着・解散	17:00 三木高校到着・解散
		↓	↓
	16:30	東播工業高校到着・解散	17:30 三木東高校到着・解散

1.1 参加者一覽

	学年	氏 名	フリガナ	性別	備考
1					
2					
3					
4					
5					

1 2 活動日誌（抜粋）

第1日目 8月23日(火)

天候 ()

[illegible]



I このボランティア活動を振り返って

II 今後の私

～メモ～



平成28年9月1日



◆報告書

平成 28 年 9 月 1 日

熊本地震被災地支援ボランティアの活動内容について（報告）

1 8/24(水)

- (1)概 要 学校支援ボランティア（草取り、清掃等）
(2)場 所 益城町立広安西小学校
〒861-2235 熊本県上益城郡益城町福富 1001 TEL 096-289-0700
(3)時 程 9:30 益城町立広安西小学校到着
10:00～12:00 作業
12:00～13:10 昼食
13:10～13:55 昼休中の児童との交流
13:55～14:10 児童の清掃補助
14:10～15:00 井手校長先生による講話
15:15 出発
(4)その他 8/22(月)～26(金) 益城町の小学校に EARTH 員派遣予定
(5)担当 広安西小学校：井出校長先生、田中教頭先生
4校：三木東高校、東播工業高校

2 8/25(木)

午前

- (1)概 要 西原村での農業ボランティア 花植え作業
(2)場 所 熊本県阿蘇郡西原村布田(ふた)978-3
(3)時 程 8:30 西原村ボランティアセンター
8:50 布田ひまわり畑到着
9:00～11:00 作業
11:15 昼食(西原村ボランティアセンター)
11:45 出発
(4)連絡先 西原村社会福祉協議会・災害ボランティアセンター
農業復興ボランティア担当 河井昌猛様
〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村鳥子 358-3 工業団地内
TEL 096-237-6676 FAX 096-279-1070
布田ひまわり畑担当 中村圭
(5)担 当 三木東高校、東播工業高校

午後

- (1)概 要 高校交流
(2)交流先 熊本県立東稜高等学校
〒862-0933 熊本県熊本市東区小峯 4 丁目 5-10 TEL 096-369-1008
校長：徳永先生、副校長：真田先生、教頭：六嘉（ろっか）先生
その他：7クラス規模の普通科高校
平成 28 年度 2 学期始業式 8/30（火）
(3)時 程 13:00～15:00（13:00 着、15:00 発）
(4)内 容 全体会の後、10 班程度での分科会
4 校生徒 66 名と東稜高校生徒会中心に 10～20 名との交流を予定
(5)場 所 東稜高校セミナーハウス
(6)担 当 東稜高校：六嘉教頭先生
4 校：龍野北高校

3 実施状況

8/24(水)

- (1) 概 要 学校支援ボランティア (草取り、清掃、交流等)
(2) 場 所 益城町立広安西小学校



8/25(木)

午前

- (1) 概 要 西原村での農業ボランティア 花植え作業
(2) 場 所 熊本県阿蘇郡西原村布田 978-3



午後

- (1) 概 要 高校交流
(2) 交流先 熊本県立東稜高等学校





【実践プログラム番号： ⑧】※3

タイトル	地域合同防災避難訓練
実施月日（曜日）	平成28年10月21日（金）
実施場所	本校（校舎・グラウンド）
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等： 協力団体 加古川市危機管理室、加古川市中央消防署西分署、加古川市消防団西神吉分団・東神吉分団、兵庫大学、東神吉町内会、防衛省自衛隊兵庫地方協力本部、コープこうべ神吉店、国際ソロプチミスト加古川
所要時間または「コマ数×単位時間」	4 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事・体験学習・その他学校内での時間・避難・防災訓練
活動目的※5	防災に関する知識を深める、技術を身につける、防災意識を高める、災害対応能力の育成
達成目標	近年増加する自然災害に備えて在学中から防災意識を高め、卒業後も地域の防災リーダーとして活動できる人材の育成と学校防災体制の充実を図る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	10:00 グラウンド集合 開会式・紹介 10:20 1年 土のう・消火訓練 2年 避難所設営 3年 救護法・搬送法 12:00 非常食体験 12:30 片づけ 13:00 閉会式 13:30 （関係者による）意見交換会 
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	土のう袋、スコップ、ジョレン、一輪車、ロープ、バケツ、水槽、ブルーシート、ハンドマイク、段ボール、ガムテープ、養生テープ、カッターナイフ、担架、ほうき、毛布、三角巾、人形、大型モニター、PC、パイプ椅子、長机、学校配置図、非常食、お茶、ホワイトボード、受付名簿・筆記用具
参加人数	800人



経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・生徒の意識が変わった。 ・実際の災害について考えるきっかけとなった。 ・助けられるから助ける側への第一歩が踏み出せた。 ・地域の方の避難支援に向け、避難経路の坂・段差など注意点が確認できた。 【課題】 ・様々な調整(人、日程、物資)が必要
成果物	別冊(マニュアル)

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



◆冊子(一部掲載)

東播工-災害時支援プロジェクト

平成28年度

地域合同防災避難訓練



日時：平成28年10月21日(金)10:00～13:30

主催：兵庫県立東播工業高等学校 T-DAT/総務部

協力：加古川市危機管理室、加古川市中央消防署西分署
加古川市消防団西神吉分団・東神吉分団、兵庫大学
東神吉町内会、防衛省自衛隊兵庫地方協力本部
コープこうべ神吉店、国際ソロプチミスト加古川

目 次

	ページ
1 合同防災避難訓練 概要	1
2 防災訓練実施場所	3
3 スケジュール	
3-1 訓練当日までの流れ	4
3-2 訓練当日のタイムスケジュール	5
4 役割分担表	6
5 訓練図説	
5-1 避難訓練・開会式・閉会式	7
5-2 土のう作り・初期消火訓練・自衛隊装備見学 ・土砂除去訓練【1学年】	8
5-3 避難所設営（区画割体験）【2学年】	9
5-4 搬送法【3学年】	10
5-5 救急法【3学年】 (1) 包帯法・応急処置	11
(2) 心肺蘇生法（胸骨圧迫）	12
5-6 非常食準備【T-DAP有志・住民】	13
6 『防災マニュアル』確認訓練（10/7, 10/21）要項	
6-1 災害対策本部	14
6-2 避難誘導班	15
6-3 保護者対応班	16
6-4 安全点検班	17
6-5 消火班	17
6-6 救急医療班	18
6-7 救護班	19
6-8 搬出班	20

1. 地域合同防災避難訓練 概要

1-1. 目的

本校は、文科省委託事業「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」の一環として、昨年度に引き続き兵庫県教育委員会から「防災教育推進校」の指定を受けた。今年度は「学校防災体制推進校」にも指定され、外部有識者の助言を受けて防災マニュアルや避難訓練の内容について見直しを行い、学校の防災体制の一層の充実を図っている。また、加古川市の「指定緊急避難場所」および「指定避難所」にもなっており、地域との密な連携が必要となっている。

そうした中、本校は毎年8割（約160名）の生徒が就職し、その大半が地元に残って地域社会の担い手として活躍している。そこで、近年増加する自然災害に備えて在学中から防災意識を高め、卒業後も地域の防災リーダーとして活動できる人材の育成と学校防災体制の充実を図る。また、ふるさと貢献活動の一環として、加古川市危機管理室はじめ加古川市中央消防署西分署、地元消防団等の地域、ならびに学校近隣の町内会と連携し地域防災力の向上を目的として実施する。そして、本校生徒は自らの安全を確保したうえで被害拡大を防ぐとともに、負傷者の救護、地域の方のスムーズな避難誘導ならびに避難所の設営など、緊急事態においてできる対応を考える機会とする。

1-2. 日時

平成 28 年 10 月 21 日（金） 9:40(準備)～13:30(片付け)まで （雨天決行）

1-3. 場所

本校グラウンド・体育館・選択教室・会議室 他（次々ページ参照）

1-4. 訓練想定

想定：地震災害

平日のお昼時。本校の北側に走る山崎断層帯主部南東部がずれ、加古川市は震度 6 強（兵庫県南部地震規模）の地震が発生。家屋の倒壊によりけが人が発生し、応急救護・搬送が必要。倒壊家屋からは火災も発生しており、初期消火により被害を最小限に抑える必要がある。地震直後から避難者が学校に押し寄せ、学校側は避難所の設営、対応が求められている。近隣住民の方が逃げ遅れていると情報が入り、避難支援が必要。さらに、保護者から安否確認の電話が鳴り続けている。近くの河川の堤防は一部損傷し、雨天時の増水により堤防の決壊が危惧されている。

1-5. 訓練主眼

- ① 生徒による自主防災体制の確立を図る。
- ② 災害時の情報伝達及び地域との連携強化を図る。
- ③ 教職員として災害状況に即した対応力の向上を図る。
- ④ 学校の防災体制の確認及び防災マニュアルの見直しを図る。



3-2 訓練当日のタイムスケジュール

	学年（避難誘導班）				職員					地域住民	外部協力													
授業	1年	2年	3年	災害対策本部	保護者対応班	安全点検班・消火班	救急医療班	搬出班	救護班	東神吉各町内会	加古川市消防署 消防団	加古川市危機管理室	兵庫大 学	自衛隊										
1校時 8:45～ 9:35	授業																							
9:40～	準備 ・替え・机移動 教室集合																							
10:00	避難訓練（グラウンド／【雨天時】体育館へ） ・開会式 ・趣旨説明（T-DAP：澤） ・協力機関紹介（消防署・消防団・加古川市危機管理室・兵庫大・自衛隊 他）																							
10:20	防災訓練																							
	土のう作り・積み （約30分） ↓ 初時消火 （約30分） ↓ 自衛隊装備 見学 土砂除去 （約30分） ※2クラスず つローテー ション				避難所設置 （50分） ↓ 11:10 （完成予定） 避難者の意 見を聞きな がら改良/意 見交換 （50分）				「防災マニュアル」に従い訓練を実施 保護者対応 地域からの避難者の対応 点検 箇所 見回り 訓練 ・見学 救護所 開設 今後へ 向けて の反省 ・見学 避難所 開設						公民館避難 概要説明 （10:45） 避難開始 ↓（10:50） 避難場受付 （11:00） 体育館へ 避難 ①受付 ②見学 ③意見交換 ④昼食・自 衛隊装備見 学・アン ケート ⑤閉会式 ⑥帰宅				各学年にて防災訓練指導				装備見学・実演 炊出し	
12:00	非常食（昼食）⇒意見交換																							
12:30	水拭き作業 片付け				解体・分別 作業				課題抽出 アンケート															
13:00 （集合完了）	閉会式（グラウンド／【雨天時】体育館へ） ・講評（消防団・加古川市危機管理室・兵庫大・自衛隊 他） ・生徒謝辞（2年坪内） ・総括謝辞（校長）																							
13:20	SHR・アンケート				通常業務					訓練終了後、会議室へ														
13:30	意見交換会（校長・教頭・事務長・総務部長・防災教育推進委員・他 自由参加） 会議室にて																							



【実践プログラム番号： ⑨ 】 ※3

タイトル	炊出し訓練
実施月日（曜日）	平成28年11月3日（木・祝日）
実施場所	本校敷地内
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	1日
プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事・体験学習・その他学校内での時間
活動目的※5	防災に関する知識を深める、技術を身につける、防災意識を高める、災害対応能力の育成
達成目標	避難所運営の一つとしての炊き出しを行うとともに、多くの方への技術の伝承と広報活動を図る。
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	校舎前広場にてテントを張り、本校生徒、保護者、PTA、地域の方、その他の方々への展示・実演を行う。
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	・ 東播工―防災時支援チームメンバー（T-DAT） ・ 米、袋、紙、インク、模造紙、紐、養生テープ、鍋、ガス、ざる、ガス台、ベスト
参加人数	150人（800人対象）
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 ・ 多くの方に知っていただく機会になった。 ・ 衛生面を考えた白米の炊き出しができた。 【課題】 ・ 大量に作るための機材・人材・材料等が必要。 ・ 衛生管理。
成果物	炊き出し物、展示物

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



【実践プログラム番号： ⑩】※3

タイトル	防災教育推進校実践報告会
実施月日（曜日）	平成28年11月26日（土）
実施場所	神戸学院大学（ポートアイランドキャンパス）
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 兵庫県立舞子高校担当者 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	半日
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事、講習会・学習会・ワークショップ、校外学習・移動教室
活動目的※5	各校で取り組んでいる防災活動の成果を発表し、その成果を共有することによって、各校の今後の取組をより発展させていく。
達成目標	他校の発表を聞き、今後の活動への参考にできた。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	12:00 集合、説明、準備（ポスター展示） 12:30 全体会、開会式、活動報告（発表） 13:20 ポスターセッション 14:20 交流会 15:10 閉会式 講評 15:30 片付け 解散 平成28年11月27日 神戸新聞（抜粋）  中央区 中高生が取り組み報告 防災ジュニアリーダー 地域防災を担う活動報告が26日、うきを育てるポートアイランドの神戸学院大学で開かれた。県立舞子高校の防災ジュニアリーダーら約100人が集まり、各地域の防災活動の取り組みをポスターで紹介し、発表を行った。舞子高校は、今年度から防災教育を重点的に取り組んでいる。今年度は、防災教育の推進校として、今年度から防災教育を重点的に取り組んでいる。今年度は、防災教育の推進校として、今年度から防災教育を重点的に取り組んでいる。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	米、袋、ざる、インク、養生テープ、紙、紐、ベスト、募金箱、パネル、ファイル 東播工－災害時支援チーム（T-DAP）
参加人数	100人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 本校の発表に対しての意見・質問 他校の発表により各取組を聞くことが出来た。 【課題】 発表内容・方法の改善 さらなる取り組みの工夫
成果物	発表用資料

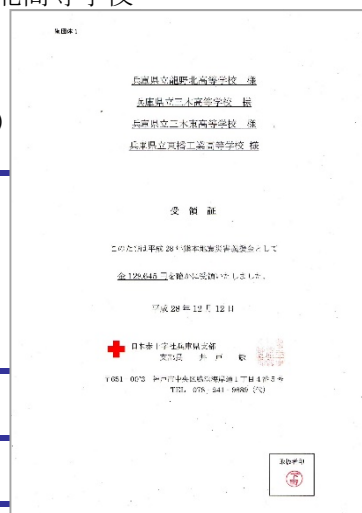
※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）



【実践プログラム番号： ⑪ 】 ※3

タイトル	4校合同熊本地震復興支援共同募金
実施月日（曜日）	平成28年11月7日（月）～11日（金）
実施場所	各校選定（駅・商業施設敷地内）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：各校担当者 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間程度
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事、その他（募金活動）
活動目的※5	防災意識を高める、その他（被災地支援の大切さを知る）
達成目標	県内の高校と協力して支援を行う
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	事前調整 - 熊本地震復興支援ボランティア参加校への呼びかけ 県立三木東高等学校・県立三木高等学校 県立東播工業高等学校・県立龍野北高等学校 - 日程調整 - 募金活動場所の許可申請 - 新聞社への協力依頼 - 各校別日での募金活動（7日～10日） 4校そろっての声掛け（11日）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	- 本校生 - 県立三木東高生 - 県立三木高生 - 県立龍野北高生 - 募金箱 - ポスター
参加人数	上記4校 生徒50名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 地元の温かいご協力・ご支援に触れることが出来た。 熊本ボランティアだけでなく、その後のつながりも持つことが出来た。 多くの募金が集まった。（日本赤十字社を通じて募金を行った） 【課題】 日程調整
成果物	募金 ¥129,645



※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



◆案内文例

平成28年11月11日

ボランティア活動 有志 様兵庫県立東播工業高等学校
東播工-災害時支援チーム T-DAT

熊本地震 復興支援合同募金の寄付方法について

晩秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。8月の4校合同でボランティア活動を機に、4校で力を合わせ熊本への支援を継続的に続ける活動として、復興支援合同募金に賛同いただき、また現在各校で実施いただいていること感謝申し上げます。

さて、義援金の届け方についてご連絡させていただきます。今回の募金活動は、生徒から声をあげ生徒たちが主体的に取り組んでいる活動なので、集まった義援金を合算し、下記の通り4校の生徒たちの手で一緒に日本赤十字社を通じて熊本に届けたく考えております。何卒ご理解とご協力、ご支援をよろしくお願いします。

記

1 日 時 : 12月9日(金)~14(水)のいずれか1日 15:00~(約30分)

※ 期末考査後、午前中授業日で4校とも都合のよい日(要調整)

ご都合の悪い日に×をお付けいただき、FAXにてご返送お願いします。

12/9(金)	12/12(月)	12/13(火)	12/14(水)
	※候補日		

決まり次第、改めてご連絡させていただきます。

【参考】期末考査(HPより)

三木高校 12/6(火)~12(月) 三木東高校 12/5(月)~9(金)

龍野北高校 12/6(火)~12(月) 東播工業高校 12/6(火)~12(月)

2 場 所 : **+**日本赤十字社 兵庫県支部(神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5)
(各校現地集合)

3 その他 : ・届け日当日、日本赤十字社4校の生徒が届けた写真を撮影します。
・各校の取り組みを各校HPで紹介いただき輪が広がれば幸いです。
・届ける日まで期間がありますので、各校で募金活動を継続いただいても結構です。



【問合せ先】

兵庫県立東播工業高等学校

防災教育推進委員会

TEL : 079-432-6861

FAX : 079-432-6862



【実践プログラム番号： ⑫ 】 ※3

タイトル	車いす再生・寄贈
実施月日（曜日）	平成28年12月2日（金）
実施場所	
担当者または講師	担当者・講師等の区分：空飛ぶ車椅子サークル 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	100時間
プログラムの カテゴリ、形式※4	イベント・行事・学校内クラブ活動・体験学習・
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり・技術を身につける
達成目標	国内外への車いすの寄贈
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	- 集めた車いすを洗浄 - ノーパンクタイヤに付け替え - 車いすの整備
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	空飛ぶ車いすサークル 廃棄車いすの再利用
参加人数	サークル部員13人 T-DAT メンバー数名
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 防災訓練で地域の方々の避難時に使用し、喜ばれたことに対して、感動した。 【課題】 活用してみて、荷台部分を脱着式に改良したい。そうすることで車いすとしての活用も可能となる。
成果物	小回りの利く運搬車 2台



※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



4. 苦勞した点・工夫した点

プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点	文部科学省委託事業「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」を活用し、兵庫県教育委員会が、防災教育推進校を指定し、高校生等防災リーダーの育成を推進し、その成果を普及することを通じて、兵庫の防災教育の一層の充実を図っている。 この防災教育推進校の指定を受け、防災ジュニアリーダー育成合宿を活用し、防災知識や技術の向上に努めた。 <苦勞した点> ・ 通常のエ育活動（各工業科の取り組み、部活動、資格検定対策補習など）の中に年間の防災教育プログラムを盛り込む上で、防災教育に対する理解と時間確保に苦勞した。 ・ 学校全体で防災教育に重点を置き、全校生・全職員・地域の方々と一緒に新しい取り組みをする中で、関係機関との調整、訓練内容等に苦勞した。 <工夫した点> ・ 地域合同防災避難訓練では、生徒たちが主体的にまた数多く取り組めるよう、複数メニューを用意し、各学年をグループに分けてローテーションで回しながら実施することとした。
準備活動で 苦勞した点 工夫した点	<全体> 防災教育推進委員会を立ち上げ組織的に取り組んだが、連携がスムーズにいかず、行き違いが生じた（それが訓練？）。その原因として、組織にすることで担当を分担できるが、逆に全体を見渡せる人が少なく、災害時に求められる臨機応変な対応という面では、逆効果だったかもしれない。 <合同防災避難訓練> 800人という大規模訓練となり、担当者への説明、何の準備を誰がするということが徹底できず負担が一部に集まった。 炊出し訓練では、当初「アルファ米を想定し、お湯を提供するので非常食を1人一つ購入下さい。」と協力を求めたが、購入先や費用面での負担が大きくなるため実施が難しかった。そこで、費用負担を抑えるため、4人に1袋提供することとした。 避難所設営に用いる段ボールの手配に苦勞した。
実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点	・ 「地域合同防災避難訓練」は全校生参加のため平日に実施している。消防団の方にはご無理をお願いし、多数参加して頂いている。一方で、協力して頂いている大学も講義があり学生の確保ならびに調整が難しかった。日程調整ならびに人材を確保しやすい専門機関への協力も検討し、より効率よい方法がないか見直す。 ・ 2週間前に防災に関する職員研修で防災マニュアルの確認と協力団体との打合せを行い、訓練で学校側と協力団体のスムーズな連携が図れるよう努めた。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	兵庫大学 救急救命サークル 看護学科学生	知的財産の提供 技術等の指導 他
保護者・ PTAの組織	兵庫県立東播工業高等学校 PTA・同窓会	各事業への協力・支援
地域組織	加古川市消防団 西神吉分団 東神吉分団 東神吉町内会 兵庫県防災士会(視察)	知的財産の提供 技術等の指導 地域連携の諸活動 情報の提供
国・地方公共団体・ 公共施設	加古川市危機管理室 加古川市中央消防署西分署 防衛省自衛隊兵庫地方協力本部	情報の提供 事業後援 情報の提供 技術等の指導 情報の提供 技術等の指導
企業・ 産業関連の組合等	コープこうべ神吉店 ナフコ西加古川店	段ボールの提供
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	国際ソロプチミスト加古川	事業実施のための寄付
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	兵庫県教育委員会防災アドバイザー	

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として 得たこと	(1) 地域連携型組織的防災活動 ～他団体との協力体制・地域とのつながり～ 今年度で2回目となった「地域合同防災避難訓練」では、加古川市危機管理室、自衛隊、消防署、地域の消防団・大学など多くの他団体と継続して協力体制を得ることができた。また、近隣住民の口コミで訓練への参加地区が増え、多くの地域とつながりを持ち、「顔の見える関係」が構築できた。日頃から声を掛けてもらえるようになった。 今回初めて近隣住民と合同でアルファ米にお湯を注ぎ提供する訓練を試みた。しかし、住民の方が自分で作ったものから持って行ってしまうなど、食事に困る災害時には特にこうした傾向になると思われ、秩序ある食料提供の方法には工夫が必要となることを感じた。 (2) 『災害時支援チーム』（T-DAT）の派遣 ～他校との連携した取組み・生徒の主体的取組み～ 県教委が主催する防災ジュニアリーダー合宿に参加することで、防災の知識と技術の向上を図った。また、防災意識の高い生徒どうしが知り合う場にもなっており、SNS等で相談をしているようである。 当初は本校T-DATだけで被災各地の募金活動を行っていたが、市内近隣校に合同募金を呼び掛けると約70名の高校生が集まり、高校生が一斉に募金を呼び掛けた。また、8月に熊本地震被災地復興支援活動を県内4校合同で実施した後も、熊本への合同募金を参加した生徒が主体的に行い、継続した取組みができています。「東播工版ともだち作戦」本校の取組みが他校を巻き込み、こうした輪が広がっていていること強く感じた。 (3) 工業高校の特色を生かした「ものづくり防災活動」 ～リヤカーを活用した避難訓練と改良～ 全生徒に救助グッズのアイデアを募り、災害時の使用場面や要求性能を考える機会を設けた。その中で技術的に現実的可能なものとして、廃棄車いすを改造した防災用リヤカーを製作することに。「地域合同防災避難訓練」前には重りを乗せ、避難経路を試走。坂道や勝手口の幅での持ち方などから日ごろ気づかないことに気付けた。そして、災害時のどのような場面で使用するか（場面設定）や必要な性能を考える機会となり、自分たちの手で改良を行った。柔軟な発想による災害時への備えに役立つと思う。
全体の反省・ 感想・課題	T-DAP を立上げて 2 年目となることから、学校全体に防災意識を浸透させ、災害時にも地域の防災拠点となることを目的として、校内に防災教育推進委員会を設置し組織的活動を目指した。 しかし、通常の教育活動の中に、年間を通じて防災教育を盛り込んでいくことがうまくできたとは言い難い。「担当に決められて、やらされる」組織では機能しにくい。また、組織的として行事ごとに教員の担当を分担すると、参加する生徒はどの先生に相談し頼ればよいか分かりづらくなり、今年度も自然的に一部の教員と防災に興味を持つ生徒で取り組む形となった。 こうした新しい取り組みを軌道に乗せるためにはまだ数年を要すると思われるが、教職員の定期異動、地域からの期待の中で、学校全体の理解を図り連携した継続的な取り組みを図っていくことが今後の課題と言える。

**今後の
継続予定**

本校生は、卒業後、その大半が地元就職し、地域社会の担い手として活躍している。

上記の通り課題が数々ある中で、今年度の取り組みで得られた他団体との協力体制・地域とのつながり、他校との連携した取り組み、生徒の主体的取り組みといった成果を大切にしつつ、課題を1つずつ解決しながら柱となる「地域合同防災避難訓練」「ものづくり防災教育」を継続していきたい。

そして、防災教育の要素を通常の教育活動の中に盛り込み、今後も引き続き「地域の防災リーダー」の育成に努めていきたい。



7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

具体的な取り組み

実施時期	実施内容
4月1日	1. 「防災教育推進委員会」設置 本校の防災教育を推し進める委員会が校内に設けられ、組織的対応を行う。
4月29日	2. 募金活動「熊本地震義援金」 加古川市社会福祉協議会の呼掛けのもと、花とみどりのフェスティバル会場（日岡山）にて本校、加古川南高校、兵庫大学と合同で街頭募金を実施した。 【参加人数：生徒3人】
5月9日	3. 合同募金活動「熊本地震義援金」 JR加古川駅前で募金活動を実施。加古川市内の高校に呼掛け、4校総勢約70名の高校生が参加。本校の取組みが、地域の同世代を巻き込み、こうした輪が広がっていること強く感じた。日本赤十字社兵庫県支部を通じて約9万円を熊本に寄付 【参加人数：教職員5人、生徒20人】
6月	4. 平成28年度「災害時支援チーム」(T-DAT)の登録 加古川市社会福祉協議会に災害ボランティア登録し、災害時にすぐに対応できる校内体制を整備した。 【登録人数：生徒28人】
	 4/29 街頭募金
	 中学生・高校生防災 ジュニアリーダー 研修合宿の様子
7月 21～23日	5. 「中学生・高校生防災ジュニアリーダー研修合宿」(主催：県教委)への参加 「熊本地震の報告」「アクションプランの作成」など6つの講義と5つのワークショップが行われ、災害に対する知識を過去の災害から学ぶとともに、将来の災害において臨機応変に対応できる力を身に着けるため、講義やワークショップ等の研修を通して、防災について学んだ。 【参加人数：教職員1人、生徒5人】



「熊本に義援金を」
 加古川の4高校
 生徒70人が活動

熊本地震の被災地に義援金を届けようと、加古川市内の高校4校の生徒約70人が9日、JR加古川駅前で募金活動を行った。雨の中、手製の募金箱を手に通行人らに協力を求めた。当初、物資を送ることも考えたが、仕分けが被災地の負担になることや、正確な必要の把握が難しいことから、熊本に義援金を送ることに決めた。

加古川市では、JR加古川駅前で、熊本地震の被災地に義援金を届ける活動が行われている。加古川市内の高校4校の生徒約70人が9日、JR加古川駅前で募金活動を行った。雨の中、手製の募金箱を手に通行人らに協力を求めた。当初、物資を送ることも考えたが、仕分けが被災地の負担になることや、正確な必要の把握が難しいことから、熊本に義援金を送ることに決めた。

加古川市では、JR加古川駅前で、熊本地震の被災地に義援金を届ける活動が行われている。加古川市内の高校4校の生徒約70人が9日、JR加古川駅前で募金活動を行った。雨の中、手製の募金箱を手に通行人らに協力を求めた。当初、物資を送ることも考えたが、仕分けが被災地の負担になることや、正確な必要の把握が難しいことから、熊本に義援金を送ることに決めた。

平成28年5月10日 神戸新聞
 市内高校と合同募金

8 月
2～4 日

6. 「中学生・高校生防災ジュニアリーダーによる東日本大震災の被災地支援」(主催：県教委)への参加

大川小学校の視察や東松島市大曲地区仮設住宅を訪問し、被災地の現状を知るとともに、被災地の高校生徒と交流した。伝えること、支援を続けることの大切さを学んだ。【参加人数：生徒 2 人】

8 月
23～26 日

7. 「高校生による平成 28 年熊本地震被災地支援活動」(三木高校、三木東高校、龍野北高校、東播工業高校)の合同実施

ひょうごボランティアプラザの第 8 回県民ボランティアバスを利用して 4 校合同で熊本地震の被災地ボランティア活動を行った。現地では、農業ボランティアや現地の高校生・小学生との交流等の活動を通して、逆にこちらが元気をもらうとともに、復興まだ半ばであることや笑顔の奥にある心の傷等を直接肌で感じた。また同時に、伝えることの大切さ、続けることの大切さも宿題として持ち帰ってきた。

ボランティア活動を通して、知識・技術の向上に加え日常及び災害発生時において「自らが何をすべきか」を考える機会となり、生徒たちの取組みに対する意識を変えることにつながった。

【参加人数：教職員 3 人、生徒 15 人】



熊本地震被災地支援活動

熊本地震被災地支援活動
～被災地小学生との交流～

10 月 21 日

8. 「地域合同防災避難訓練」(主催：本校)の実施

「公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構」と「ひょうご安全の日推進県民会議」の助成を受け、地域と連携して実施する。

地域の方の避難支援に向け、避難経路の坂・段差など注意点を確認した。今年度は 2 回目となり、自衛隊の参加による非常食の準備や複数の町内会から参加したいという声が上がリ、地域とより密な関係づくりが図れた。



T-DAT・住民：炊出し訓練



3 年生：搬送訓練



2 年生：避難所設営訓練



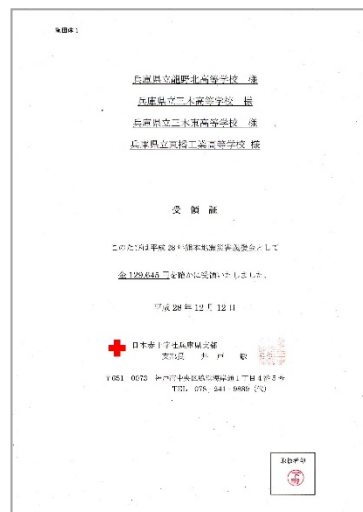
1 年生：土のう訓練



11 月
7 日～11 日

9. 募金活動「熊本地震義援金」

8 月熊本地震被災地支援に参加した各校の生徒有志が呼掛け、生徒主導で合同募金活動を実施。12 月 12 日に日本赤十字社兵庫県支部を通じて¥129,645 を寄付



11 月以降
随時

10. 活動報告会への参加

以下の場で活動報告するとともに、他校の活動についても学び刺激を受けた。

- ① 平成 28 年度 兵庫県中学生・高校生防災ジュニアリーダー活動報告会
- ② 平成 28 年度 高等学校魅力・特色づくり活動発表会（ポスターセッションの部）
- ③ 平成 28 年度 高校生ふるさと貢献活動事業活動発表会（校内）

通年

11. 防災リヤカーの試作および改良

空飛ぶ車椅子サークルが 1 学期から夏休みにかけて設計製作。T-DAT が 10 月の地域合同防災避難訓練前にその試作品を用いて避難経路で使い勝手を検証した。荷台のバランス、手をかける持ち手を改良したほうが良いという声があり、試作品をベースに T-DAT メンバーで改良を試みた。

改良案を検討する中で、災害時の使用場面をイメージしたり求められる性能を考えたり、脱着ができないか等の新しいアイデアが浮かんだり、これまでにない柔軟な発想ができるようになった。新聞に掲載されたことで問い合わせがあり、次年度以降も引き続き改良を加えていく予定である。



試作品による
合同防災避難訓練前の練習



試作品の意見交換



改良案の検討



荷台と持ち手部分の
改良・組立



改良品(1号車)完成



改良品(2号車)完成